

LDL - コレステロール

冠動脈疾患の主要な危険因子。

コレステロールは主として食物からの摂取と肝臓での生合成により血中に供給されています。肝臓から末梢へのコレステロール供給はLDL-コレステロール(LDL-c h)の形で運ばれ、HDLの末梢から肝への転送はHDL-コレステロール(HDL-c h)の形で行われます。したがって、LDL-c hの増加は末梢組織への供給過剰とも考えられるため、一部では「悪玉コレステロール」ともいわれ、冠動脈疾患の危険因子とされています。

従来、LDL-c h値はFriedewaldの推定式、

$[LDL-c h] = [総コレステロール] - [HDL-c h] - [中性脂肪] \times 1/5$ により求められていましたが、中性脂肪が高い場合やカイロミクロン、IDLが存在している場合は精度の高い結果を得ることができません。

本法では食事の影響を受けずにLDL-c h値を正確に測定することが可能です。

一般にLDL-c hが高値でHDL-c hが低値の場合は心筋梗塞、脳梗塞、肺梗塞など動脈硬化疾患のリスクが高いといわれています。

【検査要項】

検査項目	LDL - コレステロール
検査項目No	140
検体種別	血清
検体量	0.5ml
検体保存条件	冷蔵保存
所要日数	1～3日
検査方法	酵素的測定法
基準値・単位	70～139mg/dl
検査実施料	20点(「D007」感染症血清反応の「5」)
検査判断料	155点(生化学的検査)

* HDL - コレステロール、総コレステロールおよびLDL - コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。